

二〇二五年度 成城大学大学院 文学研究科Ⅱ期 入学試験問題

国文学専攻 博士課程前期

《国文学・国語学・漢文学》

注意事項

一、問題はA・Bの二種類からなる。両方とも解答すること。

一、Aの問題では、七分野（上代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近代文学・国語学・漢文学）から三分野を選び、さらにその中のイ・ロいずれかを選んで解答すること。ただし、受験者の専門分野の問題は必ず解答しなければならない。

一、Aの解答用紙（表と裏とあり）で、選択しなかった分野の解答欄には、大きく斜線を引いてそれを明示すること。

一、Bの問題では、解答用紙の「選択した分野」の欄に、自分の専門分野を明記すること。（例、「B・中古文学」）。

一、以上、二枚の解答用紙それぞれに、受験番号を忘れずに記入し、たとえ白紙であっても必ず提出すること。

以上

A

次の七分野の問題から、三分野を選んで解答すること。ただし、受験者の専門分野の問題は必ず解答しなければならない。なお、各分野から選択した問題の記号を所定の欄に記し(例、「中古文学イ」、選択しなかった分野の解答欄には、大きく斜線を引いてそれを明示すること。

A・上代文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 日本書紀について
- ロ 柿本人麻呂について

A・中古文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 紀貫之について
- ロ 枕草子について

A・中世文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 中興談儀について
- ロ 金春禅竹について

A・近世文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 八文字屋本について
- ロ 江戸中期の国学における擬古主義について

A・近代文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 坂口安吾について
- ロ 自然主義について

A・国語学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 吳音・漢音・唐音について
- ロ 格助詞がについて

A・漢文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 論語の受容について
- ロ 和漢朗詠集について

B・中古文学

次の二つの文章（上段伊勢物語^{イセモノガタリ}、下段古今集^{コノイミ}）を読んで後の問に答へよ。

むかし、ひむがしの五條に、大后^{おほきさき}の宮おはしましける、西の対^{たい}に住む人ありけり。

それを、本意^{ほんい}にはあらでころざし深かりける人、ゆきとぶらひけるを、正月^{ひつき}の十日ばかりのほどに、ほかにかくれにけり。

ありどころは聞けど、人のいき通ふべき所にもあらざりければ、なほ憂しと思ひつつなむありける。

又の年の正月に、梅^{うめ}の花ざかりに、去年^{こぞ}を恋ひていきて、立ちて見、居て見、見れど、去年に似るべくもあらず。

うち泣きて、あばらなる板敷^{いたじき}に、月のかたぶくまでふせりて、去年を思ひいでてよめる。

月やあらぬ春やむかしの春ならぬ わが身ひとつはもとの身にして

とよみて、夜のほのぼのと明くるに、泣く泣くかへりにけり。

『伊勢物語』四段

五條^{きさき}の后の宮の西の対に住みける人に、本意にはあらでもの言ひわたりけるを、正月の十日あまりになむ、ほかへかくれにける。

あり所は聞きけれど、え物も言はで、又の年の春、梅の花ざかりに、月のおもしろかりける夜、こぞを恋ひて、かの西の対に行きて、月のかたぶくまで、あばらなる板敷にふせりてよめる。

在原業平朝臣

月やあらぬ春やむかしの春ならぬ わが身ひとつはもとの身にして 『古今集』卷十五

問一 傍線部（一）（二）の内容について解説せよ。

問二 傍線部（a）（b）について文法的に解説せよ。

問三 和歌を解釈せよ。

問四 両者を対照してそれぞれの特徴を述べよ。

問五 両者の影響関係について考えるところを述べよ。

問六 在原業平について解説せよ。